

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第134回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第52回総会議事録
- ◇日本惑星科学会賛助会員名簿
- ◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

◇日本惑星科学会第134回運営委員会議事録

1. 日本惑星科学会第134回運営委員会議事録

日 時：2019年10月7日(月) 19：10 - 21：00

場 所：京都産業大学 神山ホール 3階 第1セミナー室

運営委員：

出席15名

中本 泰史, 中村 昭子, 倉本 圭, 荒川 政彦, 奥住 聡, 北里 宏平, 玄田 英典, 小林 浩, 佐伯 和人,
竹広 真一, 田中 秀和, 寺田 直樹, 中島 健介, 平田 成, 諸田 智克

欠席者8名

白井 寛裕, 関 華奈子, 関根 康人, 田近 英一, 中村 智樹, 藪田 ひかる, 和田 浩二, 渡部 潤一
(委任状：議長5通, 中本会長3通)

オブザーバー：

はしもと じょーじ(学会賞選考委員長)

出村 裕英(2020年秋季講演会組織委員長)

林 祥介(惑星探査コンソーシアムプロジェクト)

保井 みなみ(総務専門委員, 書記)

議題・報告事項：

1. 会計第15期下期(2019年度)中間報告(佐伯財務専門委員長)

- ・収入は、例年通りであった。
- ・支出は、遊星人印刷費が3号までで1,404,972円(今年度見込み額は175万円)。事務委託契約が162万で既にイースイドに支払済み。フロンティアセミナー補助金が20万円、EPS分担金が20万円。昨年度までとほぼ同じである。
- ・秋季講演会(京都産業大学)の収支はそれぞれ49万円であり、収支は0円となる(京都産業大学からの補助金の余剰分を返却するため)。

2. 会計第16期上期(2020年度)予算案(佐伯財務専門委員長)

- ・収入は2019年度と大きな変更はない。
- ・遊星人印刷費は170万円を掲示する(昨年度は165万円)。
- ・探査データ解析実習会及びフロンティアセミナーへの補助金はそれぞれ15万円, 20万円である。
- ・秋季講演会(会津大学)の収支はそれぞれ49万円で収支0円で計画している。
- ・EPS誌の分担金は例年通り20万円である。予備費の20万円は必要ない見込みのため, 取り消しとなった。
- ・会長裁量経費として, RFI改訂作業補助の学生アルバイトを133,333円(12万円+税天引き分)と掲示したが, 予算の使い道をより明確にするために, 今後名称を変更する予定である。
- ・提案予算は約74万円の赤字(昨年度より13万円赤字減)となった。(運営委員会では上記のように報告したが, 消費税の計算ミスや新項目の足し忘れなどを修正した結果, 金額が変更となり, 翌日の総会では「提案予算は約91万円の赤字(昨年度より4万円赤字増)となった。」と報告し, 承認を受けた。)
- ・2019年10月より消費税が10%に引き上げられたが, この時点までの支払い分(2019年度分)は全て消費税8%で支払うことになっている。来年度からは消費税が10%に引き上げられるため, 管理費(委託事務関連費)のサーバ基礎開発費及び管理費(事務局関連)の業務委託費が値上げする予定である。
- ・2019年度予算案及び2020年度予算案に関して, 会員種別変更によるシニア会員の増加により, 一般会員収入が減るのではないかとこの意見が出た。2019年度の決算後に, 2020年度予算案の一般会員収入見込額を再検討することになった。

3. 自然災害に伴う会費免除措置等について(佐伯財務専門委員長)

- ・2019年10月1日に学会メーリングリストにてアナウンス済みである。
- ・2020年1月中旬に締切のため, 早めの申込をお願いしたい。

4. 入退会について(北里総務専門委員長)

- ・2019年10月4日現在, 正会員一般は511名(526名)で2018年度入会が5名, 2018年度退会が18名, 2019年度入会が10名, 2019年度退会予定が0名である。
- ・正会員学生は96名(83名), シニア会員が19名(0名), 賛助会員数が2(3), 購読会員・法人数が6(12)である。
- ・括弧内は前年同時期の人数である。

5. その他総務からの案件(議長・書記等)(北里総務専門委員長)

- ・議長に堀安範会員(国立天文台), 書記に大村知美会員(名古屋大学)がそれぞれ推薦され, 承認された。

6. 遊星人の発行状況報告(和田編集専門委員長, 諸田編集専門委員)

- ・書面での報告がなされた。
- ・学会誌「遊星人」は, ほぼつつがなく発行できている。
- ・9月号(Vol.28, No.3)は, 製本不具合により再印刷となったため, 2週間程度発送が遅れた。
- ・経費削減等の理由により印刷所の変更を検討している。現印刷所との契約書の確認後, 早ければVol.29, No.1から変更する可能性がある。
- ・遊星人記事の転載許諾について, 行事部と協議しながら学会刊行物として取り扱い方を議論中である。詳細は14.を参照のこと。

7. 広報専門委員会の設置について(奥住広報専門委員会設立準備作業部会長)

- ・第133回運営委員会(2019年5月26日)において, 中本会長より, 新委員会の設置提案があった。

- ・現在、学会ホームページは情報化専門委員会と総務専門委員会が分担管理をしており、役割分担の見直しを議論するため、総務専門委員会の下に広報専門委員会設立準備作業部会を設置した。
- ・広報専門委員会の目的は以下の通りである。
 - ①惑星科学会員に向けて、有用な情報を発信・周知する
 - ②学会外に向けて、惑星科学会及び会員の活動を発信する
- ・業務は学会webのコンテンツ面の整理及び更新を新しい業務とし、組織表更新や総会・運営委員会の議案書・議事録の掲載、学会ニュースレターなどのメール配信、学会声明の作成及び掲載は総務専門委員会から移管する。
- ・メンバーは白井寛裕運営委員(JAXA)、奥住聡運営委員(東工大、委員長)、鎌田俊一会員(北大)、黒川宏之会員(東工大)、黒澤耕介会員(千葉工大)、瀧川晶会員(京大)である。
- ・各専門委員会の業務を参照できる場所をホームページに作るべきであるとの意見があった。内部の情報の流通をよくするため、専門委員会業務リストの会員ページへの掲載を検討することになった。
- ・他、ホームページに関して個別に要望があれば、適宜、委員会に指摘するよう、委員長から依頼があった。
- ・以上の内容で広報専門委員会の設置案が提案され、承認された。

8. RFI回答文書の改訂について(寺田惑星探査専門委員長)

- ・RFI回答文書への2019年度改訂を行うため、2019年10月6日、ホテルエルシエント京都にて改訂キックオフ会合が行われ、改訂方針と執筆担当案が決定した。
- ・主査は倉本圭副会長、副査は諸田智克会員、玄田英典会員、亀田真吾会員、笠原慧会員、サポートに惑星探査専門委員が入ることになった。
- ・11月中旬に作業部会を設置(予定)し、その後、作業部会委員を設置する。
- ・11月中旬にオンライン全体会議、12月中旬にパブリックコメントを募集し、12月末に完成文書を公開する予定である。
- ・2020年RFI改訂における学生アルバイトの雇用について、2019年度は会長裁量経費より支出していたが、2020年度は項目を立てて予算計上したい(学会・専門委員会の活動予算として位置づけたい)との要望があり、2021年度から名称を変更することが提案され、承認された。

9. 惑星探査コンソーシアムプロジェクトについて(荒川将来計画専門委員長、林会員)

- ・学術大型研究「惑星探査コンソーシアムプロジェクト:太陽系における生命生存環境の探求」を今年度(2019年3月)に日本学術会議に申請し、2019年5月のJpGUでヒアリングが行われた。
- ・日本学術会議から、学術大型研究計画案に内定したとの連絡があった。
- ・今後、国立天文台でコンソーシアムの事務局を設置し、並木会員を中心に活動を開始するとの報告がなされた。

10. 2019年秋季講演会報告(竹広2019年秋季講演会組織委員)

- ・2019年10月7日から9日まで京都産業大学上賀茂キャンパス・神山ホールで行われている。
- ・2019年10月7日時点で参加人数は222名。正会員一般・シニア会員が104名、正会員学生が51名、非会員が35名、無料参加(発表なしのM1以下)が32名であった。京都産業大学理学部の学生さんの参加が多い。
- ・講演数は185件(口頭76件(発表賞7件)、ポスター107件(口頭発表付き38件)、研究者賞2件)
- ・会場と運営費用は、京都産業大学からサポートがあり、会場費は無料となった。
- ・今年度の口頭付きポスター発表の発表時間は2分とした。事前スライドの提出はスムーズに完了した。講演会終了後、webフォームを用意し、アンケートをとる予定である(後日、メーリングリストにて報告する)。

- ・保育室の部屋利用が1名あった(保育サービスはなし)。
- ・3日目(10月9日)午前の火星セッションにおいて、NHKの撮影取材(サイエンスゼロ)が予定されている。

11. 2020年秋季講演会実施案(平田2020年秋季講演会組織委員)

- ・2020年9月23日(水)から25日(金)に会津大学がLOCとして開催される。委員長は出村裕英会員。
- ・一般講演会を実施する場合は、26日(土)に行う予定である。
- ・講演会会場・懇親会会場はまだ未定であるが、学内を想定し、会津大学講堂(300名収容、飲食不可)を仮押さえしてある。
- ・会津若松駅からの交通手段が徒歩30分、市内バスがほぼないため、送迎バスを考えている。そのため、バスチャーター代を30万円計上している。
- ・web係は2020年度大学院修士課程進学者予定者から人選予定であるが、実働開始は2020年4月を予定している。
- ・参加登録費及び懇親会参加費のオンライン決済の導入を検討中である。

12. 日本地球惑星科学連合の報告(中本会長, 中村副会長)

- ・田近運営委員(JpGU大会運営担当理事)より、日本地球惑星科学連合に関する報告事項があり、代理で中本会長から報告があった。
- ・代議員選挙を実施中。必ず投票してほしいとのこと。
- ・来年度のJpGUはAGUとのjoint meetingである。学会固有のセッションも英語での発表を希望するが、各学会でお任せする。
- ・「合同大会」から30周年となるので、記念イベントを予定している。
- ・フェロー、三宅賞の推薦をお願いしたい。

13. 最優秀発表賞受賞者の決定(はしもと学会賞選考委員長)

- ・東京工業大学の荒川創太会員を推薦することが提案され、承認された。
- ・今年度は非常にハイレベルであり、選考に苦労した。

14. 刊行物の使用ルール及び秋季講演会要旨集のJST目録について(中島行事部会長)

- ・J-GLOBALの目録への秋季講演会要旨集の情報掲載について、新たにオファーがあった。予稿集(pdf版)を先方が解析して無料で作成してもらえらるため、このまま進める方向で、承認された。
- ・編集専門委員会と行事部会とで学会刊行物(遊星人および秋季講演会予稿集)の利用許諾のルールに関して議論しており、これまでのところ、遊星人に関する現在の内規に倣って原著者の承諾を得ることを原則としつつ、「例外」として学術雑誌論文などに記事の少数の図を引用する場合などを列挙する方向が議論されていることが報告された。
- ・上記に対して、著作権法上の正当な引用については記載の必要があるのか、また、刊行物の著作権が著者から学会に譲渡されているか、さらに譲渡の有無と利用許諾ルールを整合的にする必要性についてコメントがなされた。これらを踏まえて今後、メーリングリスト上で意見を聞きつつ具体的に検討していくことが報告された。

15. その他

- ・佐伯財務委員会委員長より、イーサイドの今年度の契約更新が終了したことが報告された。年間150万(税含まず)で期間は2年間である。また、補充契約(2019年4月1日付)としてサーバー基礎開発費(学会サーバ

- 一の維持更新費用)として、2019年度から30万円/年(2年間)の契約が行われたことが報告された。
- ・中島行事部会長より、2021年度秋季講演会は名古屋大学で開催予定であることが報告された。
- ・中本会長より、2019年9月に開かれた米国National Academiesの次期Decadal Surveyの策定に関する会合に、日本からJAXA/ISASの藤本正樹副所長が参加されたとの報告がなされた。
- ・中本会長より、はやぶさ2の小惑星近傍運用成功に関する声明を離脱のタイミングに合わせて出すことが提案され、広報専門委員会を中心に準備することとなった。

以上

◇日本惑星科学会第52回総会議事録

日 時：2019年10月8日(火)15:40-16:40

場 所：日本惑星科学会2019年秋季講演会会場 京都産業大学神山ホール
(〒603-8555 京都市北区上賀茂本山)

正 会 員：607名

定 足 数：61名

参加人数：113名(開会時) (これに加えて非会員の傍聴者3名) >

113名(議事3.1採択時) > 112名(議事3.2採択時)

委任状：49通(議長：47通, 渡部潤一会員：1通, 佐々木晶会員：1通)

1. 開会宣言

北里総務専門委員長が開会を宣言。

2. 議長団選出

運営委員会からの推薦で議長に堀安範会員, 書記に大村知美会員が選出された。

3. 議事

3.1. 第15期上期(2019年度)中間報告

- ・会計報告(佐伯財務専門委員長)

収入について、会費の支払い済み人数の報告と未払い者への支払い呼びかけが行われた。

支出の内訳について、遊星人印刷費, 事務委託契約費, フロンティアセミナー補助金, EPS分担金の説明がなされた。

- ・各種専門委員会報告

特になし

- ・質疑応答及び討論

特になし

- ・採択

第15期上期中間報告の採択が行われ, 賛成：161(うち出席者112), 反対：0, 保留：1により採択された。

3.2. 第15期下期(2020年度)予算案

- ・説明(佐伯財務専門委員長)

収入・支出ともに2019年度と大きな変更はないこと, 支出の赤字増分は消費税増税によることなどが説明

された。

- ・質疑応答

赤字予算について詳しい説明をして欲しい：

例年と同程度の赤字であり、昨年は秋季講演会で発生した黒字やEPS分担金予備費の取消などで補填された。今年は予備費分の補填はないが、常に学会の口座にあるプール金を減らす意味でも少しずつ赤字を出すことは問題ない。

収入の部で、2019年度の前期繰り越し収支差額とある数字はどうしているのか：

2018年度に確定したものを推測値として用いている。

秋季講演会事業費のバスチャーター代とは何か：

来年の秋季講演会開催地である会津大学は交通の便が悪く、ホテルのある駅前と学会会場を繋ぐためにバスをチャーターすることを計画している。

- ・採択

第15期下期予算案の採択が行われ、賛成：160(うち出席者111)、反対：0、保留：1により採択された。

4. 報告事項

4.1. 自然災害に伴う会費免除措置について(佐伯財務専門委員長)

対象となる会員の条件、10月1日にomlでアナウンス済みであること、申請の締切は2020年1月中旬であることなどが説明された。

4.2. 学会賞授賞式：2018年度最優秀研究者賞および2019年度最優秀発表賞

(はしもと学会賞選考委員長)

黒川宏之会員と瀧川晶会員に2018年度最優秀研究者賞、荒川創太会員に2019年度最優秀発表賞が授与された。

4.3. 2019年秋季講演会の報告(河北2019年秋季講演会組織委員長)

参加人数は272名(10/8 13:00時点)、講演数は185件。口頭付きポスター発表はスライドを事前提出としたが、そのことで進行がスムーズであった。後日Webでアンケートをとる、3日目午前にNHKの撮影取材が入ることが報告された。

4.4. 2020年秋季講演会の案内(出村2020年秋季講演会組織委員長)

日程は2020年9月23日(水)から25日(金)。一般講演会は、実施する場合は26日(土)。会場は会津大学内などを検討している。交通の便が悪く、ホテルと会場の移動にバスをチャーターすることを計画している。詳細については春の総会で案内する。

4.5. その他

- ・新委員会「広報専門委員会」の紹介(奥住聡広報専門委員長)

惑星科学会員及び学会外に向けた情報の発信、また会員への情報の周知を目的として、新たに広報専門委員会が設置されたことが報告された。

- ・JpGU関係報告(中本泰史会長)

代議員選挙への投票の呼びかけがなされた。

来年のJpGUはAGUとの共同開催。

前身である合同大会から30周年のため記念イベントが検討されている。

三宅賞、連合フェローの候補者の推薦が受付中である。

- ・RFI回答文書の改訂について(寺田直樹惑星探査専門委員長)

2019年改訂のキックオフ会合を10月6日(日)にホテルエルシエント京都で開催し、改訂方針と執筆担当候補を決定した。

5. 議長団解任

6. 閉会宣言

北里総務専門委員長が閉会を宣言。

以上

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

2019年12月1日までに、賛助会員として本学会にご協力下さった団体は以下の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します。(五十音順)

Harris Geospatial株式会社
株式会社ナックイメーজテクノロジー
株式会社ノビテック

◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

(a)場所, (b)主催者, (c)ウェブページ/連絡先など。
転記ミス, 原稿作成後に変更等があるかもしれません。各自でご確認ください。

2020/05

- 5/24-28 **JpGU-AGU Joint Meeting 2020**
(a)千葉県千葉市
(b)JpGU
(c)http://www.jpgu.org/meeting_2020/